

分娩時年齢の高年齢化 現状と問題点

第54回記者懇談会（2012.5.9）

公益社団法人日本産婦人科医会

幹事 奥田美加

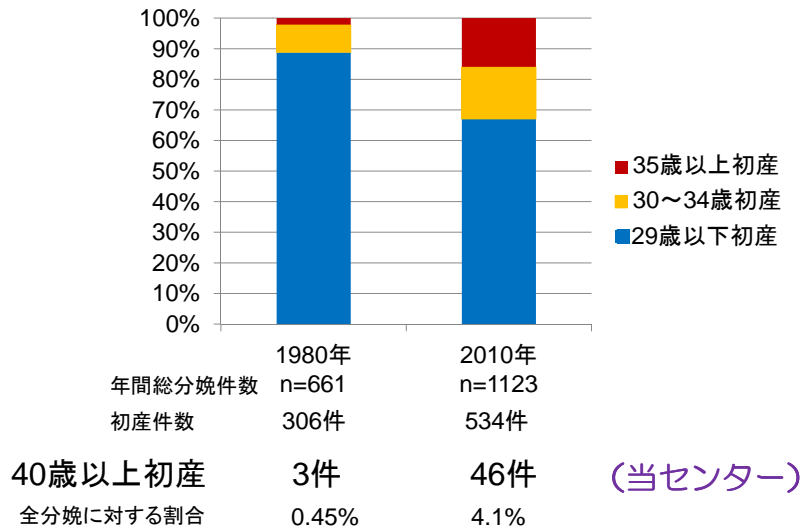
（横浜市立大学附属市民総合医療センター
総合周産期母子医療センター）

高年妊娠

- 高年初産
 - ✓1991年以前：30歳以上
 - ✓現在：35歳以上
- 出産の高年齢化は、1980年代から90年代にかけてすすんできた
 - ✓とくに2000年以降、すべての初産のうち1割を超え、晩産化がすすんでいる

高年初産（現在の定義：35歳以上）

1980年当時の定義：30歳以上



高年妊娠の問題点

- ✓妊娠しにくくなる
- ✓流産率が上昇する
- ✓さまざまな産科異常の率が上昇する
 - 妊娠前からある異常：子宮筋腫など
 - 妊娠中の異常：妊娠高血圧症候群，妊娠糖尿病など
 - 分娩時の異常
 - － 分娩誘発や陣痛促進を必要とする率が上昇する
 - － 帝王切開率や器械分娩率が上昇する（特に初産）
 - － 分娩時出血量が多い傾向　－ 低体重児が多いとの報告も
 - 染色体異常の頻度が上昇する

※妊婦のリスクスコア 「40歳以上」だけで 5点
(4点以上は周産期センター，大学病院での分娩が求められる)

不妊治療をする医師も 分娩を取り扱う医師も 高年妊娠の扱いには 苦慮している

- 先日開催された日本産科婦人科学会学術講演会において発表された一般演題数

✓高年女性に対する不妊治療の話題	2件
✓高年妊娠の検討	5件

40歳以上の高年初産に関する検討 (当センター)

- 初産1,219例の検討（除外：20歳未満，母体搬送例，多胎，死産）
- 40歳以上：35例
- 妊娠糖尿病，妊娠高血圧症，帝王切開率，分娩誘発・促進施行率が有意に高い
- 分娩時出血量が20歳代に比べ有意に多かった（平均520g vs 393g）
- このときの検討では，分娩所要時間に差はなかった（ただし経膈分娩完遂例）

日産婦神奈川会誌, 41(2):132-136, 2005

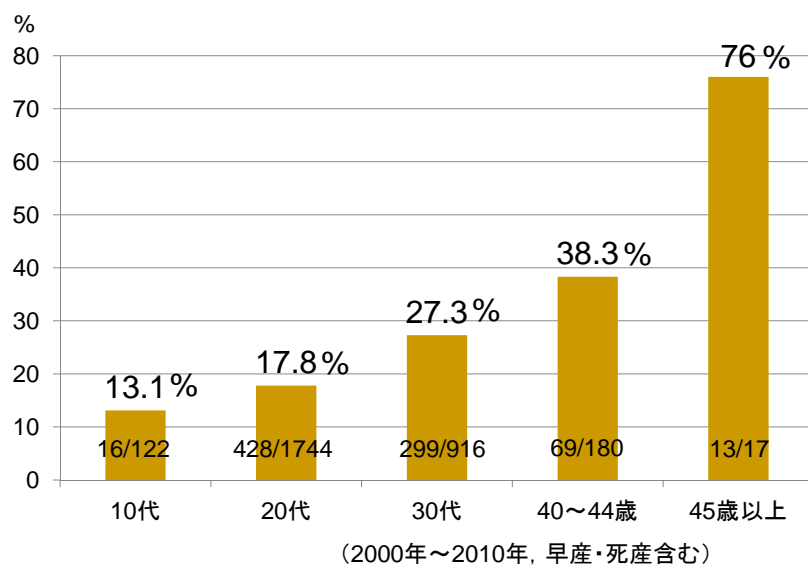
高年初産に関する検討 (当センター) 35歳未満, 35歳~, 40歳~の比較

- 不妊治療による妊娠の率, 帝王切開率は年齢が高いほど上昇する
- 妊娠高血圧症候群は, 35歳以上では35歳未満に比し高頻度
- 分娩時出血量は年齢が高いほど多い
- 分娩所要時間は40歳以上で長い
 - ✓ただし時間がかかった上で帝王切開に切り替えた例は含まれない
- 早産率, 新生児入院率に差はない

2012/4/15 日本産科婦人科学会学術講演会にて発表

- 他の施設の検討では, 当センターで差のみられなかった因子について, リスクありとする報告もみられる (早産率や低出生体重児, 新生児入院率など)
- 高年初産, とくに40歳以上の高年初産がハイリスクであることは, 各施設の共通した認識である

初産，単胎の帝王切開率（当センター）



染色体異常児の出生頻度

母年齢	Down症生産率	全染色体異常生産率	母年齢	Down症生産率	全染色体異常生産率	母年齢	Down症生産率	全染色体異常生産率
20	1/1,667	1/526	30	1/952	1/385	40	1/106	1/66
21	1/1,667	1/526	31	1/909	1/385	41	1/82	1/53
22	1/1,429	1/500	32	1/769	1/322	42	1/63	1/42
23	1/1,429	1/500	33	1/602	1/286	43	1/49	1/33
24	1/1,250	1/476	34	1/485	1/238	44	1/38	1/26
25	1/1,250	1/476	35	1/378	1/192	45	1/30	1/21
26	1/1,176	1/476	36	1/289	1/156	46	1/23	1/16
27	1/1,111	1/455	37	1/224	1/127	47	1/18	1/13
28	1/1,053	1/435	38	1/173	1/102	48	1/14	1/10
29	1/1,000	1/417	39	1/136	1/83	49	1/11	1/8

出典：遺伝カウンセリングマニュアル(南江堂)

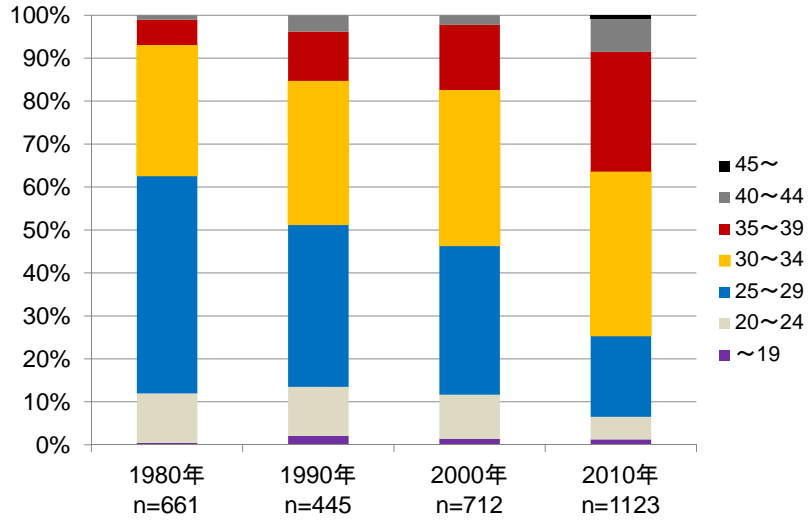
高年妊娠

- その他、高年妊娠の問題点
 - ✓手術例では、高年齢の方が、深部静脈血栓症のリスクがより高い
 - ✓出産後の子そだて、ライフプラン
 - 体力的に困難なことがある
 - 祖父母が高齢で、サポートが得られにくい
 - ケースによっては平行して親の介護が必要
 - 45歳で出産したら、子が大学を卒業する前に定年
 - より責任のあるポストに就いている場合
 - 仕事の両立、産休取得が困難？

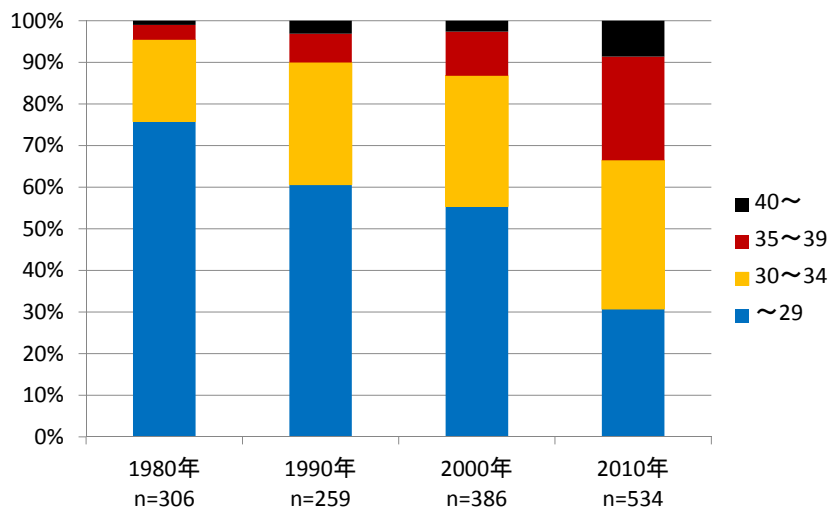
いま何が起きているか

- 大学附属病院 産科医療の現状
 - ✓横浜市立大学附属市民総合医療センターを例に
 - ✓同院の分娩台帳などから、妊産婦さんの年齢について調査してみました
- 「母子保健の主なる統計」から、我が国の出産年齢を調べてみました

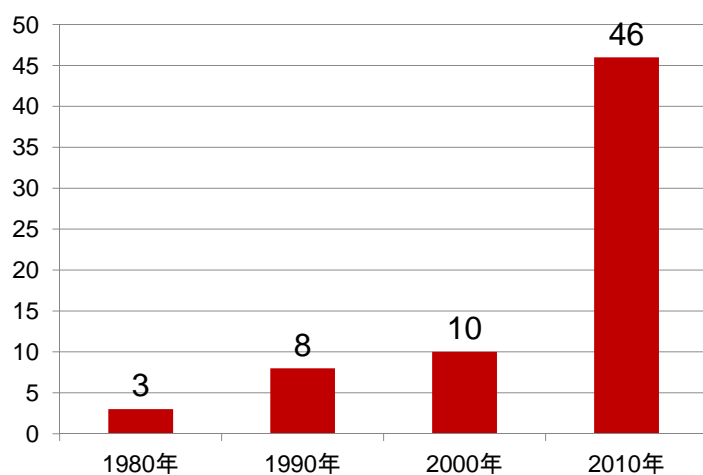
当センター 分娩時年齢（割合） 初産・経産すべて



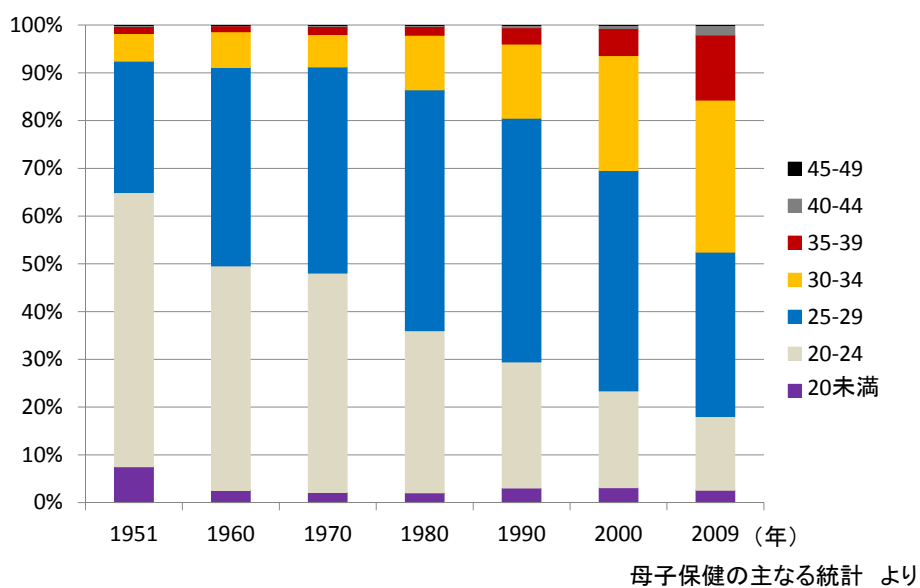
当センター 初産の年齢構成



当センター 40歳以上初産の取り扱い件数



全国 年齢別第1児出産人数



染色体異常と流産

- 染色体異常の頻度
 - ✓受精時 40%
 - ✓着床前 25%
 - ✓妊娠前期 10%
 - ✓中期以降 0.6%
- 臨床的に妊娠と診断された女性の流産率＝約15%
- 不育症に関する厚労省研究班によると
 - ✓流産組織の染色体異常は、約80%
 - ✓（従来は60%程度とされていた）
 - ✓女性の妊娠年齢が高年齢化したことが一因と考えられている

卵の加齢

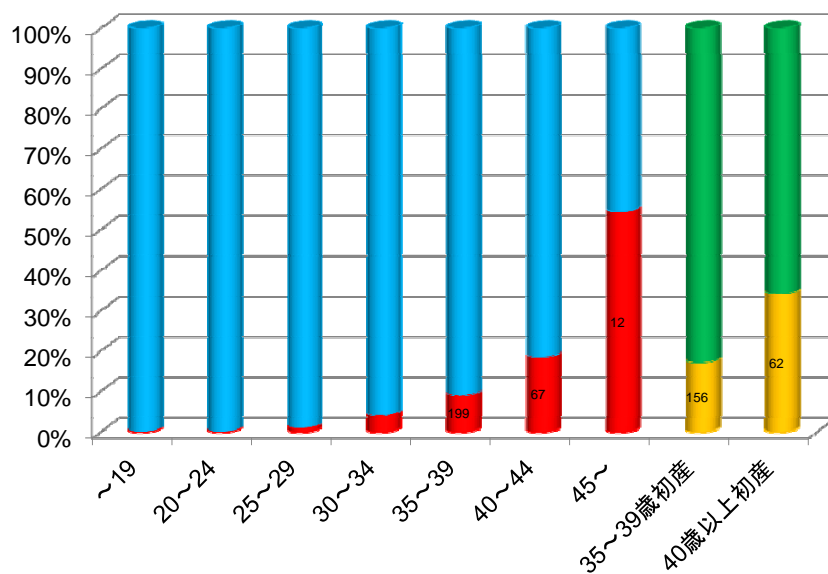
年齢が上昇するほど
卵子の染色体異常の確率が上昇する

- 卵母細胞は第一次減数分裂の前期である複糸期に細胞周期を固定され、排卵時まで長い休眠期に入る
- 排卵前に第二次減数分裂を開始し、受精により完了する
- 複糸期で固定されている間に、何らかの物理的・化学的刺激により染色体・遺伝子に異常が生じやすくなるため、相同染色体の不分離（→染色体の数的異常）が起こりやすくなると考えられている

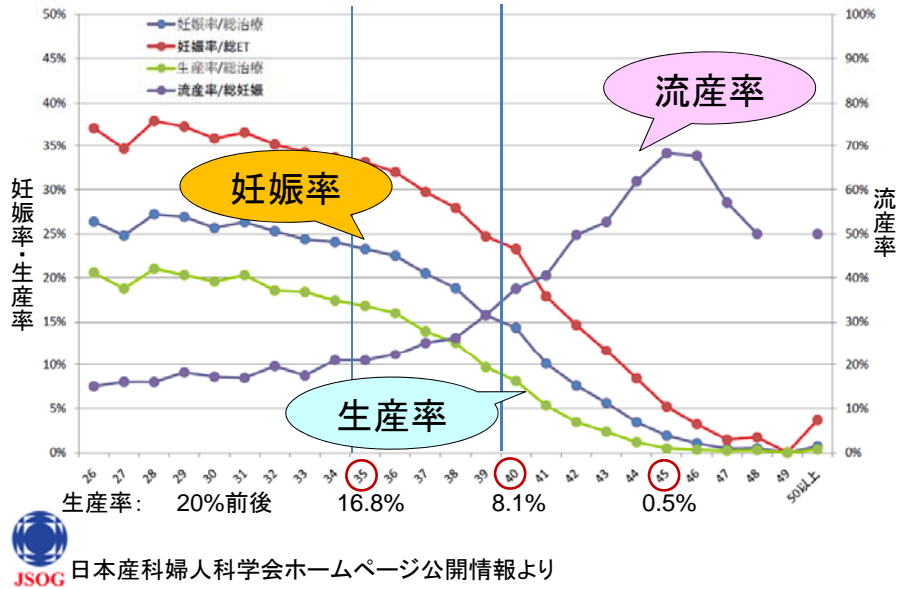
ART（生殖補助技術）と加齢

- 不妊症患者の高年齢化が顕著
 - ✓20年前は，40歳がみえてくると引導ムード
 - ✓現在は，40歳以上の通院は少なくない
- 年齢上昇に伴い妊娠率が低下するが，提供卵子によるARTの場合は低下しないらしい
 - ✓妊娠率の低下，流産率の上昇には卵の加齢が関与している

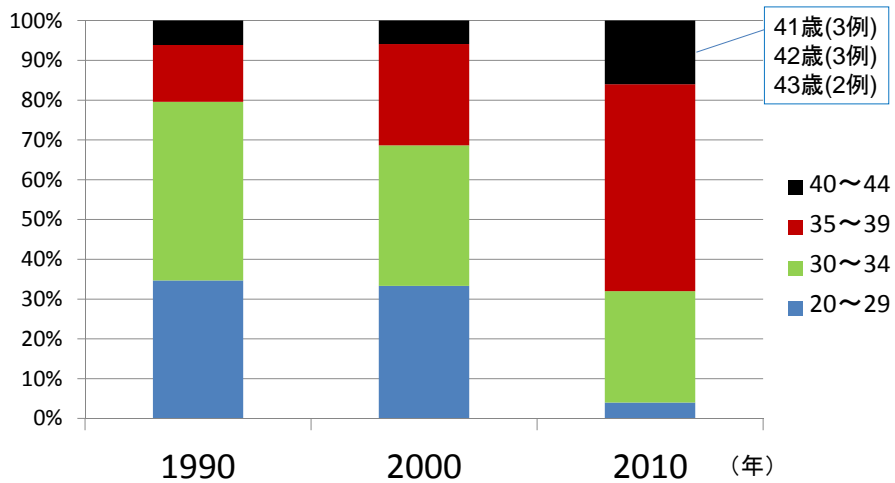
当センター 年齢別 ARTの割合



日本産科婦人科学会ART成績（2009年）



不育外来 初診時年齢 (当センター)



不育外来初診年齢別 生児獲得率 (判明分のみ)

20～29歳	64%
30～34歳	50%
35～39歳	50%
40歳～	14%

(当センター，検査終了後未来院例を含む)

ART例における連続流産の確率 (単純計算)

- 流産率15%の年齢：2回 2.2%
 (20代) 3回 0.3%
- 流産率68%の年齢：2回 46.2%
 (45歳) 3回 31.4%

実際には次回妊娠の年齢が上昇するので
もう少し高い可能性があります

子をもつ年齢は なぜ上昇したのか

情報不足

- 40歳が過ぎてからの妊娠が難しいということを知らない
 - ✓妊娠率の低下
 - ✓流産率の上昇
 - ✓さまざまなリスク
- 何十年か前までは、40歳代から生み始めようとする人は少なかった、ということを知らない

卵子が老化することを知らない

- 生まれたときから卵子がある
- 卵子も年を取っていく
- 30歳ころから徐々に妊娠しにくくなる
- 45歳過ぎると自然に妊娠することは、かなりむずかしくなる

→ 産婦人科医にとっては常識

ある44歳女性の声

- 36歳でパートナーと出会い、40歳で結婚後も仕事を優先
- その後不妊治療、体外受精を20回以上おこなって、700万円以上を費やしている
- 原因は卵子の老化以外に考えられないと医師から告げられ「ショックを乗り越えて奈落の底に突き落とされた」
- 卵子が老化することなんて誰も教えてくれなくて避妊をだけをしていた「若い頃の卵子を返して」

NHK 「クローズアップ現代」より

- 不妊治療や不育症外来に40代の患者が増加している
- さまざまな理由で避妊していたが、流産や不妊に直面して、そのことを後悔している女性がたくさんいる
- メディアを通じて知識を得ている。芸能人が45歳で出産すると、自分もできると勘違いする
- 卵子の老化を社会の常識に

NHK「クローズアップ現代」より

日本経済新聞 (女子) 2011年(平成23年)10月3日(月曜日) 9面

らぶらぶ

母親が40代の出生数

年	出生数 (千人)
70	1.2
72	1.4
74	1.6
76	1.8
78	2.0
80	2.2
82	2.4
84	2.6
86	2.8
88	3.0
90	3.2
92	3.4
94	3.6
96	3.8
98	4.0
00	4.2
02	4.4
04	4.6
06	4.8
08	5.0
10	5.2

(人口動態統計より作成)

「それでも子どもが欲しい」

晩産化に対応した支援が必要

40代 惑いの10年

仕事と両立に悩む

「晩産化に伴って、産後10年が子育ての中心になる。仕事と両立するのが難しくなる。産後10年が子育ての中心になる。仕事と両立するのが難しくなる。産後10年が子育ての中心になる。仕事と両立するのが難しくなる。」

「産後10年が子育ての中心になる。仕事と両立するのが難しくなる。産後10年が子育ての中心になる。仕事と両立するのが難しくなる。」

「それでも子どもが欲しい」

「産後10年が子育ての中心になる。仕事と両立するのが難しくなる。産後10年が子育ての中心になる。仕事と両立するのが難しくなる。」

老後や教育資金を 足りか確認を

「老後や教育資金を足りか確認を。老後や教育資金を足りか確認を。老後や教育資金を足りか確認を。」

平成23年10月3日 日本経済新聞

老後や教育資金 足りるか確認を

教育と老後資金
「生活はつる
ちていく」と
子どもをもつ
き夫婦は注意
に住宅ローン
も多い。「一
の見積もりを作って、お金足り
るか確認する」という。

だが、40代にとって妊娠
・ 出産の壁は高い。浜崎副
院長は「妊娠希望の40代女
性は、健康で生理も順調と
よく口にし、楽観的に考え
ている。実際は自然妊娠し
にくく、不妊治療をしても、
42歳を過ぎると数%しか成
果が出ない」と話す。

両立に 産化に対応し

働く女性にとっての壁は
さらに高い。職場では既に
一定のポジションにあり、
出産や子育てに伴う自己都
合を言い出しにくい。親に
子育てを頼みたくても、高
齢で頼りにくいことが多
い。キャリアと子育ての両
立は、若い世代以上の困難
が待ち構える。

Negativeな面ばかりの 記述ではなく

- たいていはpositive
な面についての記述
がある
 - 妊娠・出産リスクの
増加に関しては、ど
こにも書かれていな
い
- ✓これをただ読むと、
40歳でも簡単に2人
授かると感じるのでは

神奈川県在住の女性(42)
も40代の子育てで良かった
と感じている。40歳で長女
を出産し、今年第2子が生
まれる。「2人目が落ち着
いたら、在宅勤務で職場に
復帰する。希望を聞いても
らえるのも、30代で培った
信頼あってこそ」と話す。

↑
この方は、かなり
ラッキーな人だと
思います

- フランスでは出産と育児に対するケアが厚い
- フランスの女性は出産と育児のために職場を離れるということがほとんどない

平成24年2月7日 朝日新聞

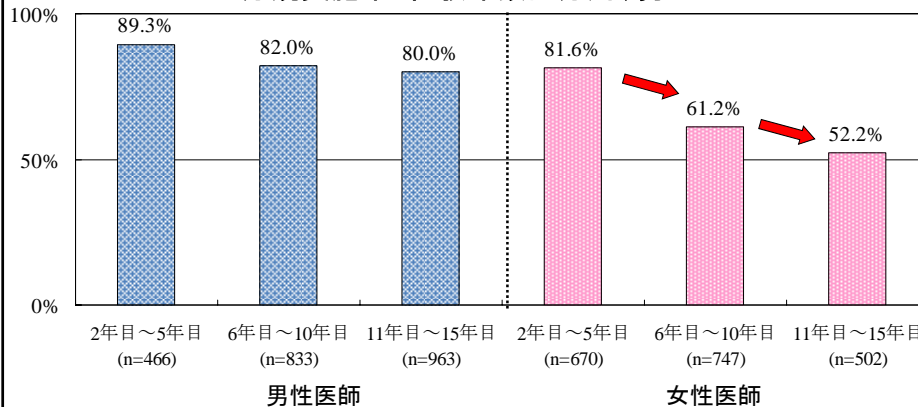
若いうちに妊娠しないのはなぜ？

- 自然妊娠して受診した、ある2経産の就労女性
 - ✓ 職場に「3人目」、って言いづらくて…また白い目で見られてしまう…
- 仕事と子そだての両立
 - ✓ 大変さばかりが強調される。子をもつことはこんなに楽しいのに
 - ✓ 日本では、まだまだ、女性が子をもちはたらくことを、社会が容認してくれない

経験年数5年ごとの分娩実施率—男女別 女性医師の継続的就労支援委員会調査より

男性医師は8割台で推移。女性医師は経験年数が増えるごとに分娩実施率は減少し、11年目～15年目では約52%まで落ち込む。

分娩実施率-経験年数区分別、男女



日本産婦人科医会HPより

公益社団法人
日本産婦人科医会
Japan Association of Obstetricians

- ▶ HOME
- ▶ おしらせ
- ▶ あいさつ
- ▶ 女性情報館
- ▶ 医会について
- ▶ 事業内容
- ▶ 会員の方
- ▶ 女性医師支援
- ▶ **役立つ図表集**
- ▶ リンク
- ▶ サイトマップ
- ▶ お問い合わせ

新宿区市谷八幡町14番地
〒162-0801

役立つ図表集

- 妊産婦死亡剖検マニュアル
妊産婦死亡に対する啓
- 女性医師活躍推進のため、1
平成22年度厚生労働
「女性医師離職防止」
2011.8.10掲載
- 母体安全への提言2011
妊産婦死亡症例検討
2010年度の提言等を解
(1)バイタルサインの重
(2)妊産婦の特殊性を考
(3)産科出血の背景に
(4)産科危機的出血への
(5)脳出血の原因として
(6)妊産婦死亡が発生し
- 望まない妊娠を繰り返す
・中高生のあなたへ

「役立つ図表集」
をクリック



パンフレット
妊娠・出産・育児中の女性医師が
働きやすい職場づくり
周りのスタッフもいきいきと
働きやすく

働きやすい職場環境を 整えるための方策を提示

- Step 1：勤務環境の見直し
✓チーム制，勤務時間など
- Step 2：妊娠・出産・育児中の女性医師
への具体的な支援
✓保育園，勤務形態，駐車場優先利用など
- Step 3：すでに効果をあげている病院
✓ベビーシッター制度，保育所への送迎支援…

http://www.jaog.or.jp/diagram/notes/jyoseiDR_2008.pdf

女性医師のキャリアデザイン



- どんなライフステージが待ち受けているのか
- どう考えどう乗り越えてきたか，などの先輩の声を掲載
- 男性にも参考になると思います

http://www.jaog.or.jp/diagram/notes/jyoseiDR_2010.pdf

女性のためだけの 対策ではありません

- 女性にとって働きやすい職場は、すべてのスタッフにとって働きやすい
- 女性の子育てだけではない
 - ✓男性だって子どもの行事に出るべき
 - ✓本人の健康問題
 - ✓家族の急病
 - ✓親の介護

スタッフ全員が常にフル稼働
できるとは限りません

産婦人科医だからこそ

- 子どもをもち仕事をするのが当たり前であるべき
 - ✓家庭環境も健康状態もさまざま
 - ✓多様な事情に対する柔軟な対応
- 妊娠出産を後回しにすることにはデメリットが大きいことを理解し、社会にも啓発していくべき
- 自身は、結婚出産後も仕事を常勤で継続するモチベーションを持つべき
 - ✓子育て経験は仕事に大きなプラスとなる

おわりに

- 卵子は老化し，妊娠には期限があることを知る
- 高年女性における不妊治療の困難さや，妊娠分娩リスクの現実の啓発
- 若くして子をもつ気になるような，妊娠子育てに関する社会全体のあり方の変革

多方面からのさらなる改善努力が必要！